

今日のみことば

□ 7月1日(日) 歴代誌上 16章

神の箱は、ダビデの町に安置されるべき場所を得た。王はレビ人を立て「主の箱の前に」毎日、感謝とさんびをささげ、礼拝をするように定めた。

□ 7月2日(月) 歴代誌上 17章

ダビデの神殿建築の願いは聞き入れられなかった。しかし、神はご自分の愛を示され、ダビデの願いを承認し、ソロモンが建築することを許され、ダビデ家の存続を約束された。

□ 7月3日(火) 歴代誌上 18章

ここにはダビデの戦争における勝利が記されている。主がダビデと共におられたからである。ダビデが従順な信仰を持ち、主のみ心に従って生きたからです。

□ 7月4日(水) 歴代誌上 19章

アモン人とその同盟者アラム人に対するダビデの戦いが記されています。ヨアブと兄弟アブシャイの連携によりイスラエルが勝利した報告がなされている。

□ 7月5日(木) 歴代誌上 20章

ここにはまずアンモンに対する最終的な勝利が報告されている。最後のペリシテ人との戦いに勝利が記述されて、ダビデの戦争が締めくくられている。

□ 7月6日(金) 歴代誌上 21章

ダビデの人口調査はサタンの誘惑でした。ダビデの驕りが引き起こした行動でした。しかし神は連帯責任としての、民の苦しみを与えられました。

□ 7月7日(土) 歴代誌上 22章

ダビデの神殿建築の願いは聞かれなかったが、彼はソロモンのために資材の準備をし、各部族の指導者たちには、その事業に協力を惜しまぬようにと命じている。

ろ ぼ No. 1874
2018年 7月 1日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ロマ 2:11
すべての人を裁く者よ。あなたには弁解の余地がない

パウロが心から願っていたローマ訪問、それただ一つ、神の福音を造られたものすべてに伝えたいとの願いにほかなりません。パウロが確信をもって「福音を恥としない」という福音を、すべての造られたものへ伝えたい、その理由をこのローマの信徒への手紙で書きました。世界中の聖書学者はこの手紙をしっかりと読み、聞き取って、神さまと共に歩む者であることの感謝を表してきました。

その核心をパウロはこの手紙で書きます。そこで初めに確認しておかなければならないことは、自分を誰だと理解しているかということです。そのことが確かなものとされない以上、福音を理解することはできないのです。「福音」

私はそれは十字架のキリストだと語らせていただきました。イエスは私たちの罪の贖いのために十字架にかかられました。私たちはそのイエスの裂かれた肉と流された血潮によって、滅びるべき私がいのちへと移していただきました。こんなうれしいニュースはどこにもありません。Good News まさしく「福音」です。しかし天の父なる神は御独り子イエスを十字架にかけられたのです。私たちには福音であっても、神にとっては最上の痛みです。私たちはそれをどれほど受け止めることが出来るかだと思っています。

パウロはそのことを私たちの信仰へ問いかけてきます。まず異邦人に問います。世界が造られたときから、神は知られてい

る。知ることが出来ている。彼らには弁解の余地はない。(1:20-21)と書きました。私は世界中、この日本人私たちも、この生かされている世界の中でしっかりこの神の息吹を感じさせています。ただクリスチャンである私たちが感じている仕方とは違いますが、私たちは自然の中にその息吹を感じて、自然の大きな動きを神としてあがめてきました。確かにそれは偶像礼拝です。そこでどうして真の神を感じ受け止めることが出来なかったか、とパウロは問うのです。それは、「自分では知恵があると吹聴しながら愚かに」(1:22-23)なったからだと言います。神を知りながら驕り、神を知らない、知らされなかったとうそぶいていたことを受け止めなければなりません。そこに救いはありません。その私たちの救いのために、イエス・キリストは十字架にかかられました。

異邦人の罪以上に、ユダヤ人の罪は大きいとパウロは言う。「あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。神はこのようなことを行う者を正しくお裁きになる。」(2:1)と言います。あなたたちは律法に忠実であると言いながら、実はそれを全く守ることが出来ていない自分を知っていますか(2:17-23)。私はクリスチャンとして、このパウロの指摘をしっかりと受け止めさせていただくのです。そしてパウロが言うことは「正しい者はいない。一人もいない。悟る者もなく、神を探し求める者もいな。」(3:10-11)。との言葉を悲しく心に留めさせていただくのです。パウロはこの悲しみを、悲しみで終わらせたくはなかった。私はこのパウロの願いを聞きながら、それ故に、この私にも「福音」が届けられた。そこでパウロは私に何を語り求めているのか。神さまとしっかり向きあっているかとの言葉でしょう。

次週の聖書・説教	ロマ3:19-31	神の義は普遍のもの
----------	-----------	-----------

——— 聖書の学び・祈祷会 》 ———

創世記 12:10-20 それって「幸い」？

アブラムを信仰の父と呼びます。約束の地で飢饉のあったときアブラムは、その約束の地を捨てて南のエジプトへ逃れました。信仰の失敗です。この失敗は、さらに失敗を加えます。

彼はエジプトへ逃れましたが、神への信仰は大いに揺らいでいました。そこで祭壇を造るわけでもない、主のみ名を呼ぶわけでもない。あったのは自分の命に対する恐れがあるだけでした。自分の妻の美しさのゆえに、殺されるかもしれないとの恐れで、生き延びようと思い、妻を妹ととまで偽りました。

私たちはこのアブラムをどう受け止めるのでしょうか。あの信仰をもってハランを出了たアブラムです。そのアブラムの行動に失望しますか。それが世俗の打算を図る男性の姿です。神はこの情けない男にも恵みをもって向きあわれました。約束は彼の勇気と信仰の欠如のために危険にさらされましたが、神の恩寵がそれを救いました。本当に幸せはどこからです？



Read God's Word.